

エジプトの高等教育機関における日本語教育（出張報告）

谷口龍子

日程

- 2010年11月26日（金）出発
2010年11月27日（土）カイロ着
2010年11月28日（日）カイロ大学シンポジウム
（カイロ大学文学部校舎内会議場）に参加
2010年11月29日（月）カイロ大学シンポジウム
（カイロ大学文学部校舎内会議場）に参加
2010年11月30日（火）佐藤五郎氏（国際交流基金カイロ日本文化センター、
日本語教育アドバイザー）と面談
2010年12月1日（水）午前：カラム・ハリール氏（カイロ大学外国語学部日
本語・日本文学科長）と面談
2010年12月1日（水）午後：久野元氏（アインシャムス大学外国語学部日本
語学科主任）と面談
2010年12月2日（木）カイロ発
2010年12月3日（金）帰国

カイロ大学シンポジウム「エジプトにおける日本研究—過去・現在・未来」

開催

2010年11月28、29日にカイロ大学主催のシンポジウム「エジプトにおける日本研究—過去・現在・未来」が開催された。このシンポジウムは、カイロ大学外国語学部日本語日本文学科の設立35周年を記念し、国際交流基金カイロ文化センター、横浜国立大学、在エジプト日本国大使館広報文化センター、日本国際青年文化協会などの協賛で開かれたものである。研究発表は、日本語と他言語との比較、日本思想・文化と他の思想・文化との比較、日本文学と他の文学との比較をテーマとし、一日目は言語、2日目は思想・文化、文学に関して国内外の研究者による発表が行われた。筆者は、1日目のセッションにおいて、“Pragmatic function of apology and thanking expressions—a comparative analysis between Arabic (Egyptian Dialect) and Japanese”の題目で榮谷温子氏と協働で発表を行った。

会場には、カイロ大学関係者や学生のみならず、他校の学生や現地に在住する日本人などで溢れ両日ともに100人以上の聴衆が集まり盛況であった。

研究発表の他に、カイロ大学日本語学科への貢献者に対する表彰式、日本の大学での留学経験者の体験談もあり、受付会場では、日本の民芸品、浮世絵や花嫁衣装などの展示も行われた。言語、文学、文化と幅広い分野において国内外から20名以上もの発表者と多くの聴衆を集め、二日間に渡る盛大な国際シンポジウムが開かれたことは、カイロ大学における日本研究の長い歴史と影響力の大きさを示すものと言えよう。



国際シンポジウム会場（カイロ大学文学部校舎内）



国際シンポジウムの受付

国際交流基金カイロ日本文化センター

佐藤五郎氏（国際交流基金日本語教育アドバイザー）と面談（於国際交流基金カイロ日本文化センター内）

佐藤氏への聞き取り内容は以下の通りである。

1. エジプトの日本語教育に対する公的支援

これまでの概略は以下の通りである。

1969 現地日本大使館において日本語講座開始

1974 日本語教育専門家がカイロ大学に派遣される

- 1988 国際交流基金日本語教育専門家を現地日本大使館日本語講座に派遣
- 1995 国際交流基金カイロ事務所の設立
- 2001 エジプト日本語教育振興会が大使館日本語講座を引き継ぐ
- 2007 日本語教育振興会から国際交流基金カイロ事務所へ運営移管
- 2008 国際交流基金カイロ日本文化センターに名称変更

1974年以降続いていたカイロ大学への日本語教育専門家派遣の支援は2010年6月に終了し、2010年12月現在はアインシャムス大学日本語学科に日本語上級専門家と日本語専門家が各1名ずつ派遣されている。

2. カイロ日本文化センター内の講座

初級から上級までの日本語教育が行われている。その他に、日本語教師養成講座や夏季休暇中の小学生児童を対象とした特別コースなども開講。

現地の学習者にとって、発話能力のスキルと比べて読解・作文能力の習得が難しいようである。

その他、学習者の特徴として、エジプトでは、大学入試が高校の成績で決められることなど現地の教育機関では試験が学生の将来に大きな影響を与えることから、日本語の学習に関しても試験の点数にこだわる学習者が多いことなどが挙げられる。

3. 日本語能力試験

エジプトにおいて98年より開始された。近年の受験者は200名程度であり、受験者数は漸増している。

以前は4級の受験者が多かったが、現在は3級受験者がもっとも多く、次に2級、4級と続く。

カイロ大学

カラム・ハリール氏（カイロ大学文学部日本語・日本文学科長、教授）と面談（於カイロ大学文学部日本語・日本文学科長室）

前述のように、カイロ大学の日本語・日本文学科は設立35年と、エジプトにおいて最も日本語教育の歴史が長い学科である。

東京外国語大学とは、1998年7月に交流協定を締結しており、これまで、サルワ氏（Salwa Elsjprbagy：2002年～2005年：カイロ大学専任講師）、ハナーン氏（El-kawiishi Hanan：2009年～2011年：カイロ大学准教授）が本学外国人客員講師として在籍しており、2011年4月から現在まで、同じくカイロ大学出身のイハープ氏（EBEID, Ehab Ahmed）が教鞭を取っている。また、ハナーン氏は、国際日本研究センター国際日本語教育部門の特任研究員として、アラ

ビア語母語話者向けの日本語教育に関する基礎的研究を本センター教員と協働で行っている。さらに、2011年9月から現在まで、東京外国語大学日本語教育特化コースの卒業生、高田祥子氏が日本人語学客員講師として赴任中であり、カイロ大学と東京外国語大学は浅からぬ関係がある。

カラム・ハリール氏へのインタビューの聞き取り内容は以下の通りである。

1. カイロ大学における日本語教育の目的は、日本の文学、思想、歴史等コンテンツを学ぶための言語スキルの向上である。
2. 学生の日本語学習動機として、かつてはやまとなでしこ幻想などがあつたが、80年代後半は、おしんブームによる学習者の増加、現在はアニメやゲームなどへの興味から日本語学習を始める者が増えている。

日本語は、80年代から特に女性に人気が出て、2010年度の日本語・日本文学科の1年生は男性が1名のみで他は女性である。

3. 教員の構成とその専門、担当他（()は人数）
教授(3)－日本文学、日本思想、日本語言語学
准教授(4)－日本文学、日本思想、日本語言語学
専任講師(3)－日本文学、日本思想、日本語言語学
助講師(4)－[大学院予備コースで研究を行うポスト]
助手(15)－[教員を手伝いながら、大学院コースに入学するために準備をするポスト]
語学講師(4)－基礎日本語担当
日本人語学客員講師 (2)－基礎日本語、会話、作文担当

4. 学生数

学部：各学年 20~25名

大学院(1994年5月設立):

予備コース(1年間)8名←201年度より廃止。

修士課程(2年間)3名

博士課程(3年間)2名

5. 日本語の教科書

『みんなの日本語Ⅰ』1年生、『みんなの日本語Ⅱ』2年生

3年以降は、作文、中級文法など専門別の教材を使用。

6. 学習者の特徴

コーランを朗読する文化的背景から、暗記を得意とし、会話能力の向上を望

む者が多い。また、現地の教育環境の影響により非常に点数にこだわりテストの成績を気にする傾向にある。

7. 卒業後の進路

大学の助手、大学院入学、日本留学、他大学で非常勤として日本語を教える、民間会社で通訳・翻訳の仕事に就く、日本の会社・企業への就職、エジプトの会社・企業への就職、観光ガイド業、観光業(ホテル、お土産屋への就職)など様々だが近年は比較的収入の多い観光ガイド等の職に就く傾向にある。

8. カイロ大学に対する日本語教育公的支援

日本語学科開設当初は日本の公的機関からの教員派遣があったが、徐々に減り、2009年7月より0名となった。

9. 協定校（主に、留学生交換、教員交換、シンポジウム開催招聘、学術書の寄贈などを行う）

東京外国語大学、大阪大学、東京大学、北海道教育大学、筑波大学、横浜国立大学、お茶の水女子大学、九州大学、早稲田大学、拓殖大学、拓殖大学、創価大学、桜美林大学、関西大学、同志社大学、沖縄国際大学

10. その他特記事項

卒業論文は必須としない。日本語能力試験受験も義務ではないが、卒業時までには2級に合格する学生が多い。

日本語能力試験受験のためには『みんなの日本語』で勉強したほうが有利だと現地では考えられており、この教科書を使用する教員が多い。



カイロ大学文学部校舎（右側）



カイロ大学正門

アインシャムス大学

久野元氏（アインシャムス大学外国語学部日本語学科主任）と面談（於アインシャムス大学外国語学部日本語学科教員室）

当学は、外国語教育の名門として知られおり、日本語学科は、2000年に創設された。

日本語学科の学生数は一学年 25 名程度であるが、10 年前に義務教育の制度改正により、2010 年度の入学者は 6 名である。

外国語学部日本語学科の主任職は国際交流基金の日本語上級専門家である久野氏が兼任しており、他に国際交流基金の日本語専門家 1 名を併せて計 7 名の日本人の教員が指導にあたっている。日本語の授業は 1 年次からすべて日本語で、スキル重視の教育が行われているために、学生の日本語能力は極めて高く、在学中に日本語能力試験 1 級に合格する者もいる。エジプト国内の日本語教育機関の中で、最も日本国内の日本語教育の方法に則った教育を行っている機関であると言えよう。

日本語教育の教材は、『みんなの日本語初級 I、II』、『文化中級日本語 I、II』、『Basic Kanji Book No. 1, No. 2』、『Kanji in Context』などが使用されている。

大学院のコースは以下の 2 通りで、いずれも 2 年間の予備課程を経る必要がある。①言語コース（応用言語学、歴史言語学、比較言語学、辞書学、文体論、意味論、リサーチ方法）②文学文化コース（日本文学、比較文学、文学批評、文学理論、リサーチ・メソッド）。

社会人向けとして考慮されていることから、授業は 15 時から 21 時まで行われる。2010 年度予備課程の在籍者は 8 名である。

アインシャムス大学からは、ほぼ毎年 2 名の学生が特別聴講学生 (ISEPTUFS/Short-term Exchange students)として東京外国語大学に留学している。



日本語学科教員室入口と日本語学科の学生



久野元先生（左）、愛木佳代先生と学生たち

現地は日本との経済格差に加え、教師の待遇がもともと悪いため、大学が直接雇用している給与額ではカイロで生活するには不十分であるという。日本人の教員7名のうち国際交流基金による派遣である2名を除く5名は、大学が直接雇用しているが、日本で貯めた貯金を崩しながら、ここで生活をしている状況であるという話であった。

総括

エジプトでは日本や日本人に好意的な人々が大変多く、日本語に興味を持つ者も少なくない。しかしながら、前述のような理由により、現地において日本語関連の教員が慢性的に不足している。そのような状況下にあって、国際交流基金等日本の公的機関による人的および経済的支援が欠かせないものとなっているが、それにも限界がある。現地の大学と日本の大学との交流協定が増えていることから、今後は、大学間の教員交換などにより、現地と日本の大学との交流を活性化し、現地の日本人教員を増やすと同時に現地の教員に対して日本学研究の方法論や日本語教育のスキル面での向上に向けた指導が望まれよう。また、学生については、近年増加している短期留学生が日本語能力を向上させて帰国した後に、本人の学力に見合った授業を受けられないといった声も聞く。こういった留日帰りの学生達へのフォローアップ体制も喫緊の課題であると思われる。